

内視鏡検査支援プログラム

取扱説明書

はじめに

1 安全にご使用いただくために

2 システム構成

3 システムの設置

4 使用方法

5 トラブルシューティング

6 主な仕様

本ソフトウェアの所在

PCのS/N : _____

インストーラーのS/N: _____

EW10-EC02

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、不測の事故を回避するとともに、機器の性能を十分に発揮して、ご使用くださるようお願い致します。

対象部位：下部消化管

警告／注意

警告

- 本ソフトウェアは大腸ポリープを検出または鑑別できないことがあります。また、誤検出や誤鑑別の結果を表示する場合があります。検査においては内視鏡画像全体を十分に観察し、医師の判断で処置を決定してください。

注意

- 鑑別支援モードはポリープの検出を目的としていません。

詳細につきまして、本取扱説明書の本文をご参照ください。

この取扱説明書の構成

はじめに

第 1 章 安全にご使用いただくために

第 2 章 システム構成

第 3 章 システムの設置

第 4 章 使用方法

第 5 章 トラブルシューティング

第 6 章 主な仕様

目次

警告／注意	ii
この取扱説明書の構成	iii
はじめに	1
取扱説明書について	1
取扱説明書の読み方	3
第 1 章 安全にご使用いただくために	1-1
1.1 機器の機能説明 (特徴)	1-1
1.2 安全性	1-2
1.2.1 人体への直接危害	1-2
1.3 取り扱い上および一般的な注意事項について	1-3
1.3.1 使用目的	1-3
1.3.2 臨床手技について	1-3
1.3.3 機能の喪失	1-3
1.3.4 機器の組み合わせ	1-3
1.3.5 機器の設置	1-4
1.3.6 保守	1-4
1.3.7 準備と点検	1-4
1.3.8 廃棄について	1-4
1.3.9 セキュリティ機能	1-4
1.3.10 ソフトウェアのバージョンについて	1-4
1.3.11 法定表示	1-5
1.4 安全および各種記号	1-6
第 2 章 システム構成	2-1
2.1 同梱品の確認	2-1
2.2 組み合わせて使用可能な機器	2-2
2.3 表示画面イメージ	2-3
第 3 章 システムの設置	3-1
3.1 インストール	3-1
3.1.1 インストールの流れ	3-1
3.1.2 バージョンアップインストールの流れ	3-2
3.1.3 バージョンアップインストール手順	3-2
3.2 機器の設置	3-4
3.2.1 接続の流れ	3-4
3.3 診断支援モード	3-6
3.4 アンインストール	3-9
第 4 章 使用方法	4-1
4.1 はじめに	4-1

4.2	起動と使用前点検	4-2
4.3	使用方法	4-4
4.3.1	検出支援モード	4-4
4.3.2	鑑別支援モード	4-6
4.4	終了	4-9
第 5 章	トラブルシューティング	5-1
5.1	トラブルシューティング	5-1
5.2	エラーメッセージ	5-3
第 6 章	主な仕様	6-1
6.1	設置環境 (USB インストーラーにのみ適用)	6-1
6.2	動作保証	6-2
6.3	保証とアフターサービス	6-4
6.3.1	アフターサービス	6-4

はじめに

取扱説明書について

この取扱説明書は、内視鏡検査支援プログラム EW10-EC02 の操作方法、各種設定、システムの設置方法など、本製品を正しく安全に使用するために必要な事柄を記載しています。

本製品を初めてご使用になる方は、「取扱説明書」を必ずお読みいただきしてから、実際の操作を行ってください。

また、「取扱説明書」を読み終わった後も製品の近くに保管してご利用ください。

内視鏡および各周辺機器の使用方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

商標

この取扱説明書に記載されている会社名、商品名は、富士フイルム株式会社またはグループ各社の商標または登録商標です。

他社商標

その他、この取扱説明書に記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

(C) FUJIFILM Corporation 2020

◆ 本製品の取扱説明書の構成

本製品は、内視鏡および周辺機器と組み合わせて使用します。「2.2 組み合わせて使用可能な機器」を参照してください。また、それらの機器の取扱説明書を参照してください。

注 意

- 「取扱説明書」の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - 「取扱説明書」の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
 - 弊社、または弊社の指定した業者以外による据付、移設、改造、保守および修理に起因する故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 弊社が納入した製品以外の他社製品が原因で弊社の製品が受けた故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 弊社指定の純正部品以外の補修部品の使用による改造、保守、修理などに起因する故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 「取扱説明書」に記載されている注意事項や操作方法を守らなかった結果に基づく故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 「取扱説明書」に記載されている電源、設置環境など、本製品の使用条件を逸脱した周囲条件による故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 火災、地震、水害、落雷などの天災による故障・損傷につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。
-
- 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正され、排出事業者である医療機関が、自らの責任で産業廃棄物を処理することが義務づけられました。
 - 自ら処分できない場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に直接廃棄を委託することが必要となります。廃棄の委託を行う際は、法律に基づく処置をお願いします。

取扱説明書の読み方

◆ 表記の説明

この取扱説明書では、本文中で次の表記の規則を使っています。

表 記	説 明
警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状況を説明します。
注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状況を説明します。 回避しないと、機器の損傷を招く可能性がある状況を説明します。
(1), (2), (3), ...	操作手順の連続する番号は、連続した操作を示します。
参考	注釈や補足を示します。
→	参照項目を示します。

ソフトウェア使用許諾

内視鏡検査支援プログラム EW10-EC02（以下、本ソフトウェアといいます。）の利用にあたっては、以下の条件に同意いただくことが使用の条件となります。また、本ソフトウェアを使用開始した時点で、以下の条件に同意したものとみなされます。

1. 富士フイルム株式会社、富士フイルムメディカル株式会社（総称して以下、富士といいます。）は、本ソフトウェアの日本国内における非独占的かつ譲渡不能な使用権を、以下の条件の下、本ソフトウェアの最終使用者（以下、ライセンサーといいます。）に許諾します。

1) 本ソフトウェアの権利の帰属

本ソフトウェアの著作権その他の知的財産権は富士に帰属します。但し、本ソフトウェアの中には富士が複数の第三者（総称して以下、ライセンサーといいます。）から再使用許諾権を得て利用しているソフトウェアが含まれます。

2) 遵守事項

ライセンサーは、本ソフトウェアにつき、次の事項を遵守し、これに違反した場合は本ソフトウェアの使用権を喪失します。

- ① 取扱説明書に規定している機器に組み込まれた以外の形態で本ソフトウェアを使用しない。
- ② 本ソフトウェア付属の取扱説明書に従って本ソフトウェアを使用する。
- ③ 本ソフトウェア及び本ソフトウェア付属の取扱説明書を第三者に開示、譲渡、貸与、再使用許諾しない。
- ④ 本ソフトウェア及び本ソフトウェア付属の取扱説明書を複製、改変しない。
- ⑤ リバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、及び本ソフトウェアのソースコードを引き出すためのいかなる試みも行わない。
- ⑥ 本ソフトウェアを国外へ持ち出さず、移転しない。
- ⑦ 本ソフトウェアにより出力した加工医療画像・動画、出力データ、レポート、その他生成物（以下「本ソフトウェア生成物」という）を、富士の事前の許可なく、公表または第三者に開示してはならない。ただし、通常の診療行為において患者または臨床医療従事者に開示する場合、臨床医療従事者間の学会・研究会に必要な範囲で開示する場合を除くものとする。
- ⑧ 本ソフトウェア、本ソフトウェア生成物、本ソフトウェアの評価結果、取扱説明書を、競合する製品やサービスの開発・構築やベンチマークを行うために利用せず、また、いかなる場合でも富士と競合する製品やサービスの開発やベンチマークを行う第三者、富士が指定する以外の医療製品販売業者、市場調査会社等に開示してはならない。
- ⑨ 本ソフトウェアには富士及びライセンサーの機密情報が含まれていることを認識し、その機密性を保護し、少なくともライセンサー自身が自らの同様な機密情報を保護するのと同程度に本ソフトウェアの機密性を保護する。

2. 富士及びライセンサーは、本書に明示的に定めるほかは、本ソフトウェアに関する権利をライセンサーに譲渡、許諾するものではありません。
3. ライセンサーが本ソフトウェアの使用権を喪失した場合は、そのすべてのコピーを富士に返却するか又は富士の指示に従って廃棄するものとします。
4. 富士及びライセンサーは、ライセンサーに対して本書に定める権利を直接行使できるものとします。
5. 本ソフトウェアはライセンサーに現状のままで提供され、富士は、本ソフトウェアの市場性や特定目的への適合性、及び本ソフトウェアが第三者の権利を侵害しないことを保証せず、またいかなるテクニカルサポートを提供する義務も負いません。

6. 前項に拘らず、富士は、本ソフトウェアにつき、そのライセンシーへの納入から1年以内に発見されかつライセンシーから補正請求のあった瑕疵につき、無償でこれを補正します。ここにいう瑕疵とは富士が本ソフトウェアのパンフレット等に表示した機能・性能を欠いていることを意味します。
7. ライセンシーは、本ソフトウェアの使用に関してライセンシーが富士に提供した情報・提案・データのうち（但し、個人情報保護法が定義する個人情報を除く。）について、富士が、富士の製品の評価・開発・改良のために利用することに予め同意します。なお、ライセンシーは、本ソフトウェアの不具合解析、その他業務を富士に委託する目的で提供する場合を除き、個人情報保護法が定義する個人情報を富士に提供しないものとします。
8. 富士は本ソフトウェア又は付属取扱説明書の使用に基づく間接的・結果的・偶発的あるいは特殊事情によるいかなる二次的な損害に対しても責任を負わず、かつ根拠如何を問わず本ソフトウェアに関して富士がライセンシーに対して損害賠償責任を負担する場合はライセンシーが富士に支払った本ソフトウェアの購入金額をもって富士が負担する賠償責任総額の上限とします。

以上

第 1 章 安全にご使用いただくために

1.1 機器の機能説明（特徴）

本ソフトウェアはプロセッサから受信した内視鏡画像を解析し、病変である可能性のある領域の抽出や腫瘍または非腫瘍の可能性を推定して観察者に示すことで、内視鏡画像の観察を支援します。

- 検出支援モード：
病変である可能性のある領域を検出し、その結果をモニターの内視鏡画像に重畳して表示します。
- 鑑別支援モード：
病変が腫瘍性または非腫瘍性である可能性を推定し、推定結果を表示するとともに、推定している内視鏡画像内の位置をポジションマップとして表示します。

1.2 安全性

本製品を使用する前に、以下の注意事項をよく読み、正しく取り扱ってください。
本製品を正しく使用しないと、傷害を受けたり物的損害を起こすことがありますので、必ずお守りください。

警告

- 医療機器の使用・保守の管理責任は、使用者（病院・診療所）側にあります。また、医師および法的有資格者以外は、ご使用にならないでください。
- 本製品は、内視鏡の手技について十分なトレーニングを受けた医療従事者がご使用になることを前提としています。この取扱説明書には、臨床手技と内視鏡の技術面に関する記載はありません。

注意

- 機器を改造しないでください！
医療機器は品目ごとに製造販売の承認または認証が必要で、医療機器の「機能の変更」を行う場合は承認または認証の一部変更申請が義務づけられており、無断改造は禁じられています。
- 分解、改造により、人体への傷害、機器の破損になる可能性があり、また機能の確保ができなくなります。

1.2.1 人体への直接危害

警告

- 「2.2 組み合わせて使用可能な機器」に記載されていない周辺機器を使用した場合は、正常に機能しないだけでなく、感電したり、機器を破損したり、患者および術者を傷付けたりするおそれがあります。

1.3 取り扱い上および一般的な注意事項について

本製品を取り扱う際は、以下の注意事項を厳守してください。

1.3.1 使用目的

①観察者が病変の検出を目的に取得する大腸内視鏡画像において、病変である可能性のある領域を抽出し同画像の観察者に示すことで、病変可能性部位への観察者の注意を喚起して、観察者が画像を解釈し病変検出することの支援を行なうこと。本品目の位置付けは、「観察者による存在診断の補助」であり、本装置による検出結果のみで病変検出を行なうことは目的としていない。

②観察者が病変の疾患鑑別を目的に取得する大腸内視鏡画像において、病変の視覚的特徴から腫瘍または非腫瘍である可能性を推定し同画像の観察者に示すことで、病変鑑別時の観察者の注意を喚起して、観察者が画像を解釈し疾患鑑別することの支援を行なうこと。本品目の位置付けは、「観察者による腫瘍または非腫瘍の鑑別診断の補助」であり、本装置による鑑別結果のみで確定診断を行なうことは目的としていない。

1.3.2 臨床手技について

警告

- 本プログラムは、内視鏡の手技について十分な研修を受けた医療従事者がご使用になることを前提としております。取扱説明書には、臨床手技と内視鏡の技術面に関する記載はありません。臨床手技については、諸先生方のご専門の立場から判断していただくようお願いいたします。

1.3.3 機能の喪失

注意

- “ パーソナルコンピューターとモニターのみが接続された構成 ” の場合、内視鏡による検査中にパーソナルコンピューターが停止すると内視鏡画像が表示されません。
→ “3.2.1 接続の流れ” および “5.1 トラブルシューティング”。

参考

- 「パーソナルコンピューター」とは、本書では本ソフトウェアをインストールするパーソナルコンピューターのことを指します。
- 内視鏡の操作方法については、内視鏡の取扱説明書を参照してください。

1.3.4 機器の組み合わせ

警告

- 本製品は、内視鏡および周辺機器と組み合わせて使用します。感電事故を防止するために、「2.2 組み合わせて使用可能な機器」に記載されていない機器は使用しないでください。

1.3.5 機器の設置

警告

- 機器を設置する際、感電や機器の落下事故を防止するため、それぞれの機器の取扱説明書を参照してください。

1.3.6 保守

注意

- 検査中や処置中に本ソフトウェアの保守や修理(アップデート等)を行わないでください。
- 外部メモリをパーソナルコンピューターに接続する前に、必ずウイルスチェックを実施してください。ウイルスチェックを実施しないで外部メモリを接続すると、ウイルスにより、本ソフトウェアが正常に動作しなくなるおそれがあります。

1.3.7 準備と点検

注意

- 不測の事故を回避し、機器の性能を十分に発揮してお使いいただくために、この取扱説明書の手順に従って、使用前の点検を行ってください。

1.3.8 廃棄について

注意

- USB インストーラーを廃棄する場合には法律に定められた手順に従ってください。詳細については、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。

1.3.9 セキュリティ機能

注意

- プロセッサにログインすると、電源を切るまで、プロセッサの操作を通してパーソナルコンピューターに記録された全ての情報へのアクセスが可能になります。離れる前に必ずログオフするか電源を切ってください。
- パスワードを忘れてプロセッサにログインできなくなった場合は、営業所または、お買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。

1.3.10 ソフトウェアのバージョンについて

- この取扱説明書は Ver.2.1 の操作について説明しています。ソフトウェアのバージョンは“診断支援モード設定 (EW10-EC02)”メニューで確認できます。設定メニューの表示と操作については“3.3 診断支援モード”を参照してください。

1.3.11 法定表示

本製品の法定表示は“診断支援モード”の“ライセンス”メニューで確認できます。メニューの表示と操作については、“3.3 診断支援モード”を参照してください。

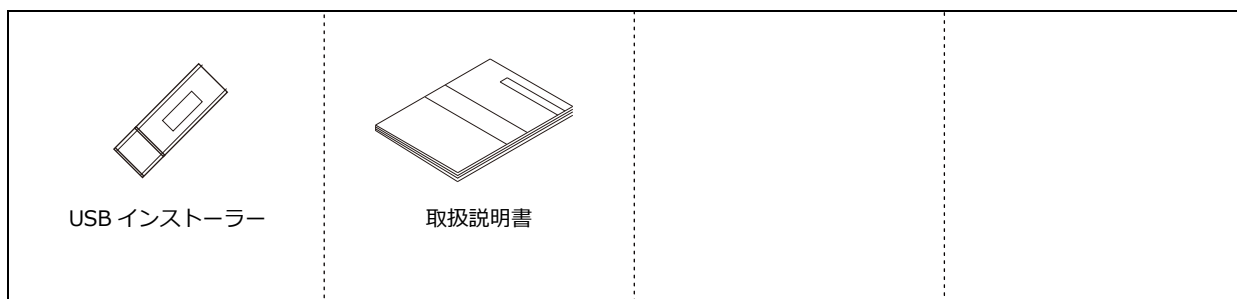
1.4 安全および各種記号

Symbol	説明
 SN	製造番号
	製造年
	製造業者

第 2 章 システム構成

2.1 同梱品の確認

以下の図に示されている同梱品がそろっていることを確認してください。同梱品に破損がないことを確認してください。破損がある場合や同梱されていない場合には、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご連絡ください。



2.2 組み合わせて使用可能な機器

本ソフトウェアと組み合わせて使用可能な機器の例を以下の表に示します。

表 2.1 機器構成

種類 (利用可能機能)	機種名
プロセッサ	VP-7000、EP-6000、EP-8000
光源装置 ※1	BL-7000、LL-7000
内視鏡	700 システムスコープ (下部消化管用) 800 システムスコープ (下部消化管用) L600 システムスコープ (下部消化管用) ※2 6000 システムスコープ (下部消化管用) ※3
キーボード ※4	DK-7000、DK-6000、DK-8000
パーソナルコンピューター	“6.2 動作保証” に示す仕様を満足するパーソナルコンピューター → “6.2 動作保証”
モニター	“6.2 動作保証” に示す仕様を満足するモニター → “6.2 動作保証”

※1 光源装置 BL-7000 は、EP-6000、EP-8000 では使用できません。また、光源装置 LL-7000 は、EP-6000 では使用できません。

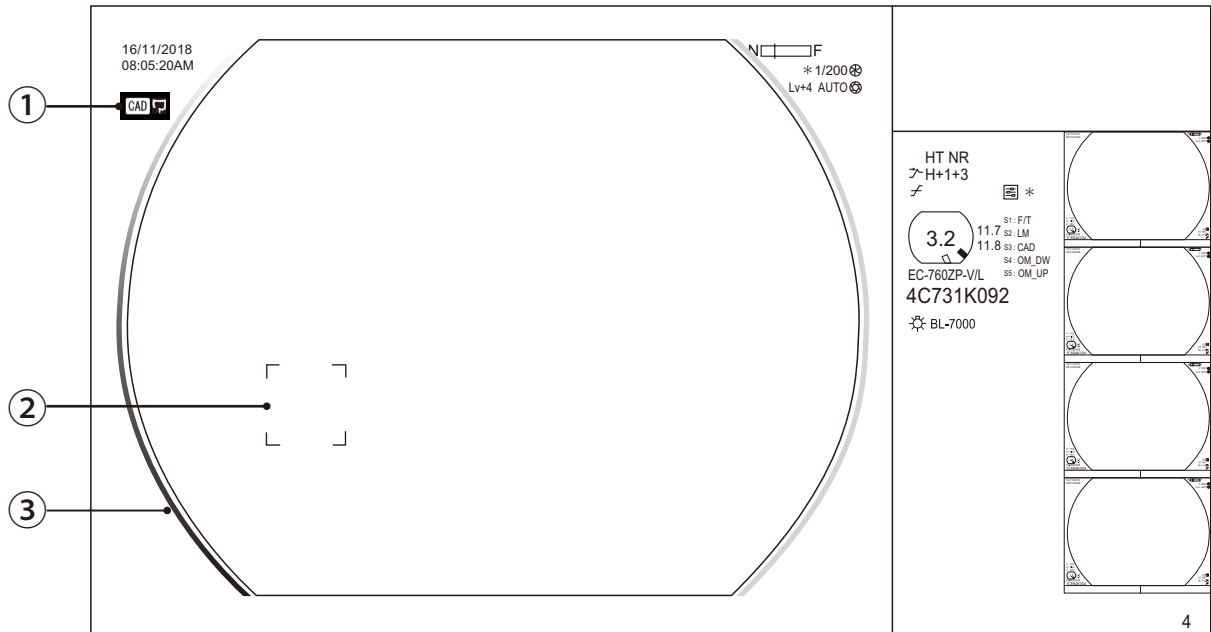
※2 L600 システムスコープは、EP-6000 では使用できません。

※3 6000 システムスコープは、BL-7000、LL-7000、VP-7000、EP-8000 では使用できません。

※4 ソフトウェアのインストールでのみパーソナルコンピューターに接続して使用します。詳細は“3.1.1 インストールの流れ”を参照してください。ソフトウェアのインストール後はプロセッサに接続されたキーボードを使用してください。

2.3 表示画面イメージ

< 検出支援モード >



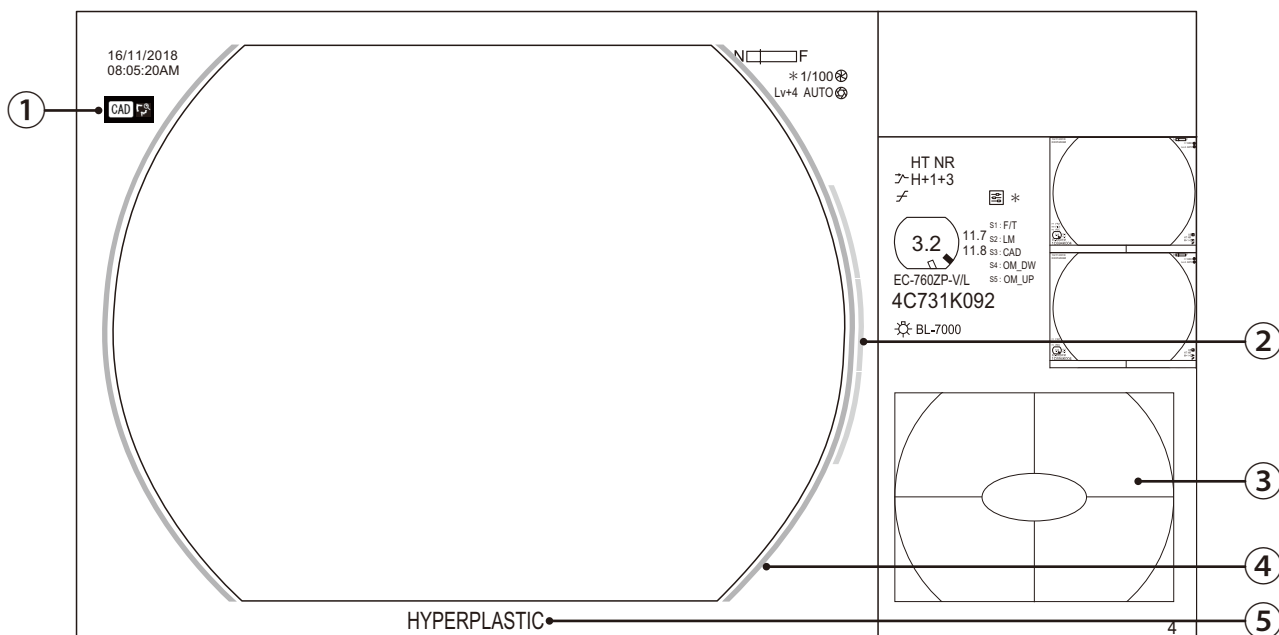
1	<p>CAD^{※1} 状態表示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> CAD : 検出支援モード</p> <p><input type="checkbox"/> CAD OFF : OFF</p> <p><input type="checkbox"/> CAD : CAD 不可</p>
2	<p>検出ボックス</p> <p>病変である可能性のある領域を示します。</p>
3	<p>ビジュアルアシストサークル</p> <p>内視鏡画像の四隅の境界線のうち、病変の可能性のある領域に近い境界線が点灯します。</p>

参考

- 使用するプロセッサによって、画面レイアウトや表示アイコンの位置など、表示画面イメージは多少異なります。
- 検出支援モードが ON のとき、ビジュアルアシストサークルによって、プロセッサが表示している以下の情報の一部が隠れます。
 - フォーカスメーター
 - 特殊光観察モードのアイコン
 - 明るさレベル
 - FICE セット

※1 CAD はコンピューター支援診断の一般用語です。(本ソフトウェアは診断を行うことを目的としていません。)

< 鑑別支援モード >



1	<p>CAD 状態表示</p> <p> : 鑑別支援モード</p> <p> : OFF</p> <p> : CAD 不可</p>
2	<p>ステータスバー</p> <p>病変である可能性のある領域の腫瘍性または非腫瘍性の分析状態を示します。</p> <p>→ “4.3.2 鑑別支援モード”。</p>
3	<p>ポジションマップ</p> <p>ソフトウェアが腫瘍性または非腫瘍性を分析している領域の位置を示します。</p>
4	<p>ビジュアルアシストサークル</p> <p>腫瘍性または非腫瘍性の推定結果にもとづき、NEOPLASTIC と推定される場合には黄色に、HYPERPLASTIC と推定される場合には緑色に点灯します。</p>
5	<p>腫瘍性／非腫瘍性の推定結果</p> <p>腫瘍性／非腫瘍性の推定結果を以下の分類で表示します。</p> <p>NEOPLASTIC: 悪性腫瘍または良性腫瘍</p> <p>HYPERPLASTIC : 鋸歯状病変 (SSL 及び過形成性ポリープ)</p>

参考

- 使用するプロセッサによって、画面レイアウトや表示アイコンの位置など、表示画面イメージは多少異なります。
- プロセッサが表示する情報のうち、検出支援モードで隠される情報に加えて、鑑別支援モードでは以下の情報がポジションマップによって隠されます。
 - ラップタイム
 - フリーズ時の観察動画
 - インデックス画像の 3 枚目と 4 枚目

第 3 章 システムの設置

3.1 インストール

注 意

- インストール実施中は、パーソナルコンピューターの電源を切らないでください。インストール完了前に電源が切られると、インストールを正常に実施できません。
- インストール完了前に電源が切られた場合やインストールが失敗した場合、再インストールが必要です。
- インストール完了後、USB インストーラーをパーソナルコンピューターから取り外します。
- インストール完了後、「診断支援モード設定 (EW10-EC02)」メニューの管理情報を参照して、設定 (日付設定など) が正しいことを確認してください。
- インストール完了後、USB インストーラーを取扱説明書のバインダーに入れて保管してください。USB インストーラーは別の用途に使用しないでください。
- USB インストーラー以外の USB メモリーを接続しないでください。また、USB インストーラーはインストールやアンインストール以外の用途で使用しないでください。
- 本ソフトウェアは、EW10-SC01 V1.5、EW10-VM01 V1.4、EW10-EG01 V1.2、VT-1 V2.1 と同一のパーソナルコンピューターにインストール可能です。
- EW10-EC02 V1.0 や V1.1 の動画は本ソフトウェアをインストールすると、閲覧やコピーができなくなります。EW10-EC02 をバージョンアップする前に EW10-EC02 V1.0 や V1.1 の動画はあらかじめ取り出してください。

3.1.1 インストールの流れ

本ソフトウェアをインストールする際の作業フローです。

バージョンアップをする場合は、「3.1.2 バージョンアップインストールの流れ」を参照してください。

- (1) モニターとパーソナルコンピューターを DVI ケーブルで接続します。
- (2) パーソナルコンピューターとキーボードを USB ケーブルで接続します。
- (3) USB インストーラーをパーソナルコンピューターに接続します。
- (4) パーソナルコンピューターの電源を入れます。
- (5) モニターに「Start setup?」と表示されたら、キーボードの [Y] キーを押します。
- (6) モニターに「Select language for setup.」と表示されたら、キーボードの [J] キーを押します。

- (7) モニターに「Setup completed normally.」と表示されたら、インストール完了です。USB インストーラーを取り外して、パーソナルコンピューターの電源を切ります。

参考

- USB インストーラーを取り外さずに、パーソナルコンピューターを再起動すると、インストール画面が再度表示されます。その場合は、「Cancel」を選択し、USB インストーラーを取り外して再起動してください。
- インストールが正常に行われない場合には、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを確認して、対策を実施してください。詳細は、「5.2 エラーメッセージ」を参照してください。
- インストール後、USB インストーラーは取扱説明書と共に安全な場所に保管してください。

3.1.2 バージョンアップインストールの流れ

注意

- パーソナルコンピューターに同居可能な複数の製品をインストール、またはバージョンアップする場合は、以下の順序で作業してください。以下の順序で作業しないと、不整合が発生し動作しないことや、インストールバージョンアップ作業が続行できなくなることがあります。

- (1) アンインストールする製品がある場合は、バージョンアップする前にアンインストールします。
- (2) インストール済みの製品をすべてバージョンアップします。
- (3) 新たにインストールする製品がある場合は、インストール済みの製品をすべてバージョンアップした後で、インストールします。

3.1.3 バージョンアップインストール手順

注意

- 以下の手順を実施する前に、Version Update Kit 以外の USB メモリーがパーソナルコンピューターに接続されていないことを確認してください。接続されている場合は、パーソナルコンピューターから取り外してください。

- (1) モニターとパーソナルコンピューターを DVI ケーブルで接続します。
- (2) パーソナルコンピューターとキーボードを USB ケーブルで接続します。
- (3) Version Update Kit の USB メモリーをパーソナルコンピューターに接続します。
- (4) パーソナルコンピューターの電源を入れます。
- (5) モニターに「Start setup?」と表示されたら、キーボードの [Y] キーを押します。
- (6) モニターに「Upgrade?」と表示されたら、キーボードの [Y] キーを押します。
- (7) モニターに「Select language for setup.」と表示されたら、キーボードの [J] キーを押します。

- (8) モニターに「Setup completed normally.」と表示されたら、インストール完了です。続けて、製品出荷時にバインダーに格納している USB インストーラーをバージョンアップします。

参考

- Version Update Kit の USB メモリーは、パーソナルコンピューターに接続したままで、以下の手順を実施してください。

- (9) USB インストーラーを USB ポートに接続します。
- (10) モニターに「Upgrade Installer?」と表示されたら、キーボードの [Y] キーを押します。
- (11) モニターに「Upgrade completed normally.」と表示されたら、バージョンアップ完了です。USB インストーラーと Version Update Kit の USB メモリーを取り外し、パーソナルコンピューターの電源を切ります。

3.2 機器の設置

3.2.1 接続の流れ

本製品を接続する際の作業フローです。

プロセッサと光源装置との接続方法については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- (1) プロセッサとパーソナルコンピューター（DVI IN 側）を DVI ケーブルで接続します。
- (2) プロセッサとパーソナルコンピューターをモニターに接続します。
パーソナルコンピューターに DVI 出力が複数ある場合は、DVI-1 側へ接続してください。
- (3) プロセッサとパーソナルコンピューターを RS-232C ケーブルで接続します。
- (4) キーボードは（パーソナルコンピューターではなく）プロセッサに接続されていることを確認します。

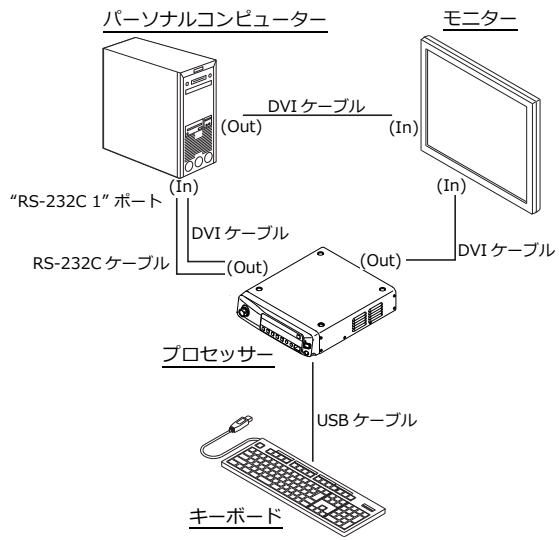
注意

- プロセッサとパーソナルコンピューターがそれぞれモニターに接続されていることを確認してください。
- 本製品を施設外のネットワークに接続しないでください。

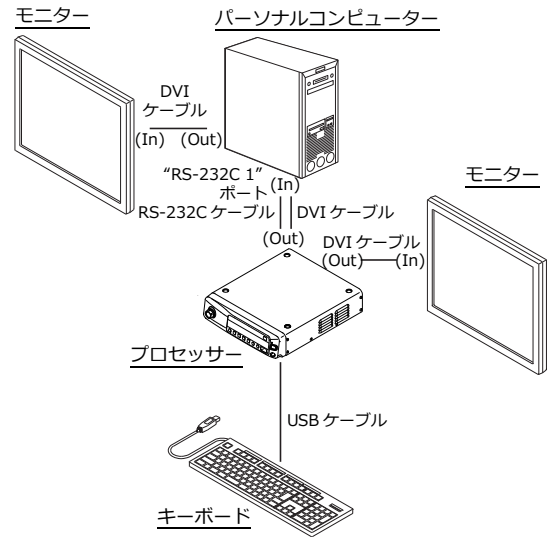
参考

- パーソナルコンピューターとモニターの間画像切り替え機などを入れた場合、モニターに表示される画像が乱れたり、表示されない場合があります。そのような場合、パーソナルコンピューターとモニターは直結してください。
- パーソナルコンピューターに複数の DVI OUT があるとき、医師が観察に使用する主モニターは、パーソナルコンピューターの DVI OUT1 に接続してください。
- 「6.2 動作保証」を満足しないモニターを接続した場合、モニターに表示される画像が乱れたり、表示されない場合があります。
- ビデオレコーダーや DVI-SDI コンバーターなどの機器を接続する場合は、「6.2 動作保証」のモニター仕様を満たす機器のみを接続し、それ以外の機器はパーソナルコンピューターに接続しないでください。
- 2 モニター構成の場合、プロセッサとパーソナルコンピューターをそれぞれのモニターに接続してください。
- RS-232C ポートが複数ある場合、RS-232C ケーブルはパーソナルコンピューターの「RS-232C 1」ポートに接続してください。

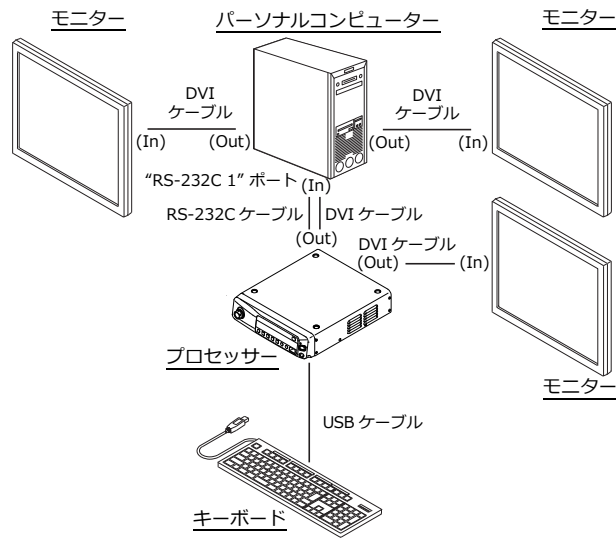
<1 モニター構成 >



<2 モニター構成 >



<3 モニター構成 >



3.3 診断支援モード

参考

- 使用するプロセッサによって、設定画面の表示および操作手順が異なります。詳細については、プロセッサの取扱説明書を参照してください。

- (1) プロセッサに接続されているキーボードの [システム] キーを押します。「システム設定」の画面が表示されます。
- (2) [←] と [→] キーを使って「表示」タブを選択します。
または、[↑] キーと [↓] キーを使って「システムの拡張」タブを選択した後、[Enter] キーを押します。
- (3) [↑] と [↓] キーを使って「EX-WS システム設定」を選択し、[Enter] キーを押します。「EX-WS システム設定」の画面が表示されます。



参考

- 本画面が表示されない場合は、RS-232C ケーブルの接続を確認してください。
- パーソナルコンピュータに DVI 出力が複数あり、DVI-1 および DVI-2 の両方をモニターに接続している場合は、DVI-1 側のみに本画面が表示されます。

- (4) [←] と [→] キーを使って「診断支援モード設定 (EW10-EC02)」を選択し、[Enter] キーを押します。

「診断支援モード設定 (EW10-EC02)」の画面が表示されます。

- (5) 設定項目を選んで [Enter] キーで設定値を変更します。
- (6) 設定値を変更後、[Enter] キーを押すとカーソルが次の設定項目に移動します。
- (7) 設定を反映するには、「設定終了」にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。

参考

- 設定を変更した場合は、必ず「設定終了」を行ってください。「設定終了」をしないと設定値が反映されません。

設定項目については、以下のとおりです。

設定カテゴリー	設定項目	設定値	説明
共通設定	検査開始状態	ON	検査開始時の検出支援モードの ON/OFF を切り替えます。
		OFF	
検出支援モード設定	検出ボックス強調	強	検出支援モードでの検出ボックスの大きさを調整します。
		中	
		弱	
	ビジュアルアシストサークル	ON	検出支援モードでのビジュアルアシストサークルの表示/非表示を切り替えます。
OFF			
サウンド	サウンド	大	病変である可能性のある領域を検出したときに鳴る報知音の音量を調節します。
		中	
		小	
		OFF	
鑑別支援モード設定	白色光鑑別支援	ON	通常モードのときに鑑別支援モードへの切り替えができるかどうかを選択します。
		OFF	

設定カテゴリー	設定項目	設定値	説明
エラー情報	履歴表示	表示のみ	エラーが発生した日と内容が表示されます。
	履歴削除	はい いいえ	エラー情報履歴を削除するかどうかを選択します。
システム情報	日時	表示のみ	現在の日時が表示されます。
	ソフトウェアバージョン	表示のみ	現在のソフトウェアバージョンが表示されます。
	シリアル番号	表示のみ	本製品のシリアル番号が表示されます。(設定されている場合のみ)
	UDI	表示のみ	現在のソフトウェアの UDI が表示されます。
	ライセンス	表示のみ	法定表示とライセンス情報が表示されます。

3.4 アンインストール

本ソフトウェアをアンインストールする際の作業フローです。

- (1) パーソナルコンピューターとキーボードを USB ケーブルで接続します。
- (2) USB インストーラーをパーソナルコンピューターに接続します。
- (3) パーソナルコンピューターの電源を入れます。
- (4) モニターに「Start setup?」と表示されたら、キーボードの [Y] キーを押します。
- (5) 「Already installed. What do you want to do?」と表示されたら、キーボードの [U] キーを押してアンインストールします。
- (6) 「Uninstall completed normally.」と表示されたら、アンインストール完了です。USB インストーラーとキーボードを取り外して、パーソナルコンピューターの電源を切ります。

参考

- アンインストールする際は、インストール時に使用したUSBインストーラーが必要になります。
- アンインストールする場合に備えて、どのUSBインストーラーでインストールしたかを取扱説明書の表紙に記録しておいてください。

第 4 章 使用方法

4.1 はじめに

本製品を使用する際の作業フローです。フローに従って取扱説明書を参照してください。

- 1 使用前の点検をします。
→「4.2 起動と使用前点検」
- 2 検査を開始します。
- 3 検出支援を実施します。
→「4.3.1 検出支援モード」
- 4 鑑別支援を実施します。
→「4.3.2 鑑別支援モード」
- 5 検査を終了します。
→「4.4 終了」

参考

- VT-1 が同居している場合には、VT-1 の画面上で検査開始／終了を指示します。プロセッサからの検査開始／終了の操作は機能しませんので、ご注意ください。

4.2 起動と使用前点検

警告

- 本ソフトウェアは医師の管理下で行われる大腸内視鏡検査の診断支援のために使用されることを意図します。この取扱説明書に記載されている目的以外には使用しないでください。診断は諸先生方の責任のもとに行ってください。
- “2.2 組み合わせて使用可能な機器”に記載されていない内視鏡および周辺機器を使用した場合は、正常に機能しないだけでなく、感電したり、機器を破損したり、患者および術者を傷付けたりするおそれがあります。
 - ➔ 「2.2 組み合わせて使用可能な機器」
 - ➔ 「6.2 動作保証」
- 本製品は、内視鏡の手技について十分な研修を受けられた方がご使用になることを前提としております。この取扱説明書では、臨床手技には立ち入っておりません。臨床手技については、諸先生方のご専門の立場から判断していただくようお願いいたします。

- (1) 本ソフトウェアと組み合わせて使用可能な内視鏡をプロセッサに接続します。

参考

- 使用可能な内視鏡であることを確認してください。

- (2) まずモニターの電源を入れます。次にパーソナルコンピューターの電源を入れ、パーソナルコンピューターが起動した後、プロセッサおよび光源の電源を入れます。

- (3) プロセッサの設定に従って、「診断支援モード」を割り当てたスコープスイッチ、マルチボタンまたはフットスイッチのいずれかを押し、画面左上の診断支援モードアイコンが正しく切り替わることを確認します。

観察モードによって、切り替わるパターンが異なります。

- 観察モードが通常モードまたは LCI:  → 
- 観察モードが通常モードで、「白色光鑑別支援」が ON の場合:  →  → 
- 観察モードが BLI の場合:  → 

参考

- 以下の条件のときに、診断支援モードを ON にできます。
 - 検査中である。
 - プロセッサの画像出力が Full-HD になっている。
 - 互換性のある内視鏡が接続されている。
- ➔ “2.2 組み合わせて使用可能な機器”
 - プロセッサが VP-7000 の場合
「PoP On」が「OFF」になっている。
「PoP On」が「ON」、かつ「PoP Layout」が「主：内視鏡／副：PoP」になっている。
 - プロセッサが EP-8000 の場合
「PoP1」「PoP2」の設定によらず、メイン画面エリアに内視鏡画像が表示されている。
 - プロセッサの設定で「マスクタイプ」が「タイプ 1」になっている。

- 診断支援モードアイコンが表示されない場合は、以下のいずれかの対処を行ってください。
 - モニターにパーソナルコンピューターからの画像が表示されていることを確認してください。
 - DVI ケーブルの接続を確認してください。
それでも表示されない場合は、パーソナルコンピューターが故障している可能性があります。検査を継続する場合は、モニターをプロセッサ直結に切り替えてください。
 - 「診断支援モード」を割り当てたスイッチを操作しても診断支援モードアイコンが切り替わらない場合は、RS-232C ケーブルの接続を確認してください。
- (4)** 検出支援モードにおいて、病変である可能性のある領域を検出した際に報知音を必要とする場合には、「診断支援モード設定 (EW10-EC02)」の「サウンド」が「大」もしくは「中」もしくは「小」に設定されている事を確認します。

4.3 使用方法


注意

- 大腸に内視鏡を挿入していなくても床面などを病変と誤認し、検出する場合があります。その場合は、診断支援モードを OFF にします。
- 2 モニター構成をご利用の場合、本ソフトウェアがインストールされているパーソナルコンピュータに接続したモニターにのみ表示されます。
- 観察時は、検出ボックス、報知音およびポジションマップに頼らず、観察画像全体を十分に確認してください。

参考

- プロセッサの機能を使って保存した静止画には、検出支援モードおよび鑑別支援モードで表示されるアイコン等 (CAD 状態、検出ボックス、ビジュアルアシストサークル、ステータスバー、ポジションマップ、腫瘍性/非腫瘍性の推定結果) は記録されません。

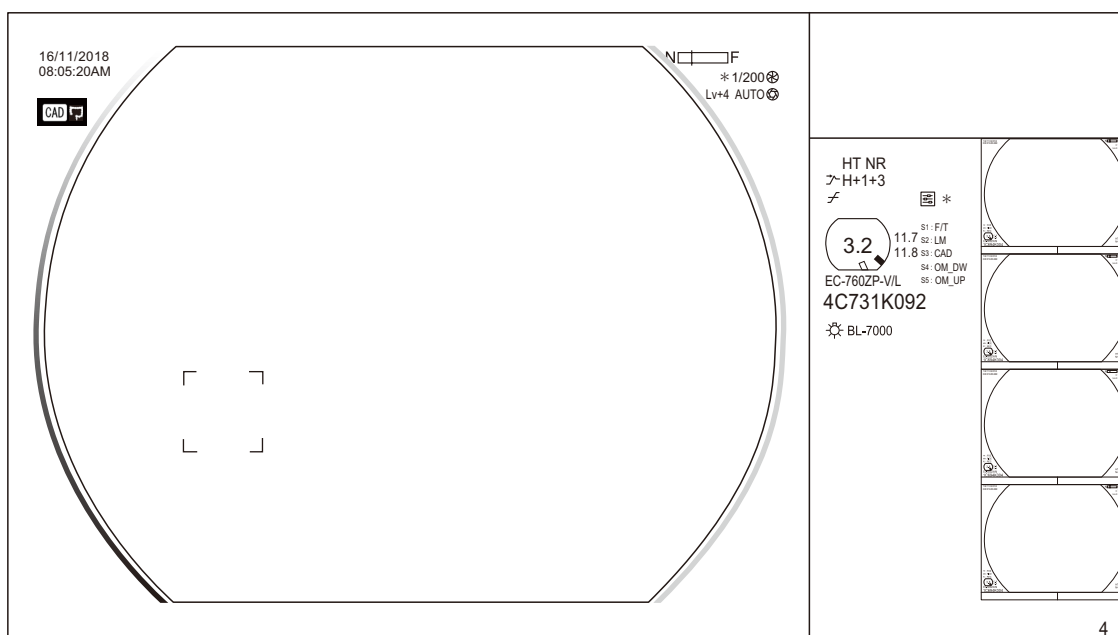
4.3.1 検出支援モード

- (1) プロセッサの検査ボタン (EXAM. ボタン) を押して検査を開始し、光源のライトを点けます。
- (2) プロセッサの設定どおりに、「特殊光簡易切替」を割り当てたスコープスイッチ、マルチボタンまたはフットスイッチのいずれかを押して、画面右上に表示された観察モードを「LCI」または通常モードに切り替えます。
- (3) プロセッサの設定どおりに、「診断支援モード」を割り当てたスコープスイッチ、マルチボタンまたはフットスイッチのいずれかを押して、画面左上に表示された CAD 状態アイコンを  にします。

参考

- システム設定画面の「診断支援モード設定 (EW10-EC02)」 - 「共通設定」 - 「検査開始状態」を「ON」にしておく、プロセッサの検査ボタン (EXAM. ボタン) を押して検査を開始した時、観察モードが「LCI」または通常モードの場合には検出支援モードが自動的に ON になります。

- (4) 病変である可能性のある領域を検出した場合、検出ボックスが表示され、報知音が鳴ります。病変である可能性のある領域を内視鏡画像の隅に検出したとき、その領域に近い四隅のいずれかのビジュアルアシストサークルが点灯します。



注意


- 画面上に表示されていないポリープは検出されません（例えば、ひだの裏側にあるものや水没しているもの）。また、処置中や処置後のポリープなど、ポリープによっては検出できない場合があります。
- 同じ大きさの病変であっても、内視鏡と病変との距離に関して画面上に表示される病変の大きさが変わり、病変を検出できない場合があります。
- 内視鏡画像が観察に不適切な状態の場合、病変は検出されません。例えば、以下の場合です。
 - ハレーションを起こしている画像
 - 暗い画像
 - 送水中の画像
- 画面上に表示されていない病変は検出されません（例えば、ひだ、出血、残液、残渣に隠れているもの）。検出ボックスの表示箇所だけでなく、観察画像全体を十分に確認してください。
- 切除前の病変に検出ボックスが表示されていても、切除後の病変には検出ボックスが表示されない場合があります。
- 内視鏡の移動が早すぎる場合は、ポリープを検出できない場合があります。
- 1つの病変に複数の検出ボックスを表示する場合や、複数の病変に1つの検出ボックスを表示することがあります。

参考

- ポリープの切除中に、切除により粘膜から離れたポリープも検出される場合があります。その際に検出ボックスや報知音を消したい場合は、診断支援モードを OFF にします。

- 病変である可能性のある領域を検出した場合、報知音が約 1 秒間鳴ります。その間に検出ボックスが消える場合があります。
- プロセッサのパネルボタンを押したときに画面上部に表示される情報（「マスクタイプ」など）の上に検出ボックスが表示される場合があります。

4.3.2 鑑別支援モード

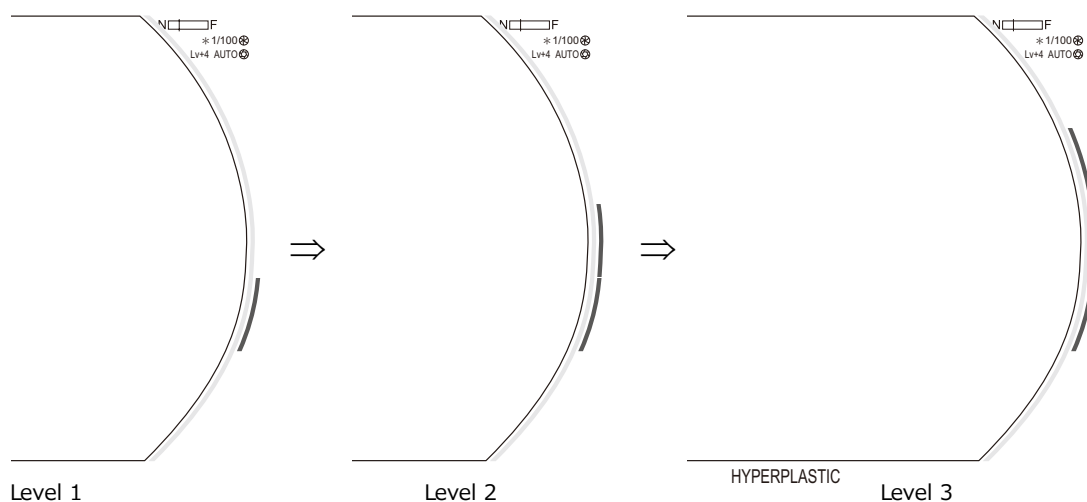
- (1) プロセッサの設定どおりに、「特殊光簡易切替」を割り当てたスコープスイッチ、マルチボタンまたはフットスイッチのいずれかを押して、画面右上に表示された観察モードを「BLI」または通常モードに切り替えます。
- (2) プロセッサの設定どおりに、「診断支援モード」を割り当てたスコープスイッチ、マルチボタンまたはフットスイッチのいずれかを押して、画面左上に表示されている CAD 状態アイコンを  にします。

参考

- 検出支援モードを ON にして使用中に、観察モードを「BLI」に切り替えると、鑑別支援モードが自動的に ON になります。
- (3) ステータスバーがレベル3になると、腫瘍性／非腫瘍性の推定結果が表示されます。ステータスバーがレベル3とならない場合、光学ズームで拡大するか、または内視鏡の先端を領域に近づけたり動かしたりしてステータスバーがレベル3になるようにします。

ステータスバーの表示は以下の通りです。

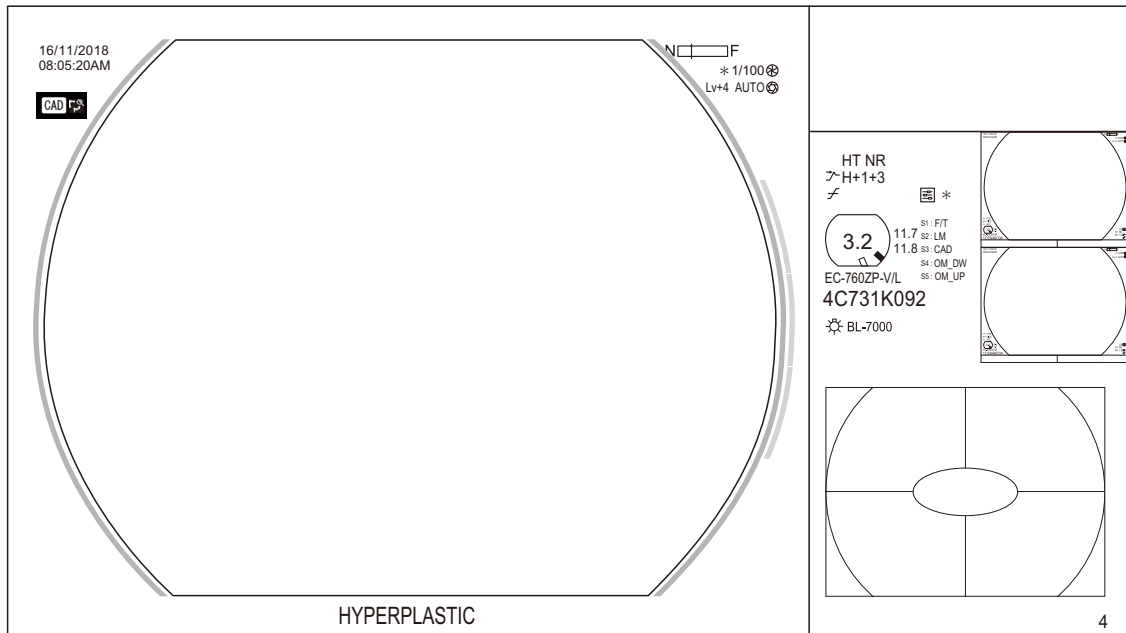
- Level 0（非表示）：病変領域に反応していない。
- Level 1 (1/3 表示)：異種の病変領域に反応した。混在している。
- Level 2 (2/3 表示)：異種の病変領域に反応した。混在せず、分離している。
- Level 3 (3/3 表示)：同種の病変領域に反応した。



(4) 病変である可能性のある領域を分析した結果、鋸歯状病変（SSL 及び過形成性ポリープ）と推定される場合に、ビジュアルアシストサークルは緑色に点灯し、画面下部に「HYPERPLASTIC」と表示されます。

同様に、悪性腫瘍または良性腫瘍と推定される場合、ビジュアルアシストサークルは黄色に点灯し、画面下部に「NEOPLASTIC」と表示されます。

また、画面右下のポジションマップに、ソフトウェアが分析を行っている領域の位置を示します。



注意

- ポジションマップにおいて、病変ではない場所に病変の位置情報が表示される可能性があります。(例えば、残渣、内視鏡の曇りや汚れ)。観察時は観察画像全体を十分に確認してください。
- ポジションマップに表示される病変領域は参照情報です。観察時は観察画面全体を十分に確認してください。
- 画面に映っていない病変は鑑別できません。(例えば、ひだ、出血、残液、残渣に隠れているもの) 観察時はポジションマップに表示されている領域だけでなく、観察画面全体を十分に確認してください。
- 内視鏡画像上に表示される病変の映り方によっては異なる鑑別結果が表示される可能性があります。(例えば、撮影角度や病変までの距離)
- 切除前の病変がポジションマップに表示されていても、切除後の病変はポジションマップに表示されない場合がありますので、内視鏡の観察画像を十分に確認し、医師の判断で処置を決定してください。

注意

- 内視鏡画像が以下の状態である場合、鑑別されない可能性があります。
 - ハレーションを起こしている画像
 - 暗い画像
 - 送水中の画像
 - 内視鏡が動いていることによるボケ画像
 - 病変が複数映っている画像
- ➔ “4.3.2 鑑別支援モード” (3)
- 鑑別支援モードは検出に使用されることを意図していません。

参考

- 処置中や処置後のポリープは鑑別できません。
- 内視鏡と病変との距離が遠いなど、はっきりと表示されていないポリープは鑑別できない場合があります。

4.4 終了

注意

- カートをご使用の場合、パーソナルコンピューターの電源を切る前に、カートの電源を切らないでください。

- (1) 内視鏡を大腸から抜去します。
- (2) プロセッサの検査ボタン (EXAM. ボタン) を長押しして、検査を終了します。
- (3) 内視鏡をプロセッサから取り外します。
- (4) パーソナルコンピューターの電源を切ります。

第 5 章 トラブルシューティング

5.1 トラブルシューティング

注 意

- 検査中にもしパーソナルコンピューターが止まったり、または内視鏡画像が表示されなくなった場合は、以下の手順を行ってください。

- (1) プロセッサとモニターをDVIケーブルで直接に接続し、内視鏡画像をモニターに表示します。
- (2) 検査を終了した後、パーソナルコンピューターの再起動、または以下の対応策を行って確認してください。

症 状	考えられる要因	対処方法
電源ボタンを「入」にしてもパーソナルコンピューターが作動しない(パーソナルコンピューターの電源表示灯が点灯しない)	1) パーソナルコンピューターのメインスイッチが「切」になっている 2) 電源コードが正しく接続されていない 3) 電源コードの不良 4) コンセントの不良 5) ヒューズが切れている	1) パーソナルコンピューターのメインスイッチを「入」にします。 2) 電源コードの接続をし直します。 3) 電源コードを点検してください。 4) 定格電圧が供給されているか確認してください。 5) パーソナルコンピューターの販売業者へご相談ください。 6) 問題が解決しない場合、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。

症 状	考えられる要因	対処方法
映像が出ない	1) 内視鏡、プロセッサおよびパーソナルコンピューターの接続が不完全 2) モニターの電源が「切」になっている 3) モニターの入力選択があっていない 4) モニターが接続されていない 5) プロセッサの出力設定をSXGAにしていた	1) 内視鏡、プロセッサおよびパーソナルコンピューターを接続し直します。 2) モニターの電源を「入」にします。 3) INPUT を接続したラインにあわせます。 4) モニターをケーブルで接続します。 5) 表示された画面の指示に従って、プロセッサの出力設定を Full-HD に変更してください。 6) 問題が解決しない場合、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。

参考

- プロセッサと光源装置の電源を再投入する場合は、5秒以上待ってから行ってください。
- プロセッサの操作方法については、プロセッサの取扱説明書を参照してください。
- 光源装置の操作方法については、光源装置の取扱説明書を参照してください。

5.2 エラーメッセージ

エラーが発生した場合、関連エラーコードが記録されます。

エラー情報については、「3.3 診断支援モード」を参照してください。「エラー情報」の「履歴表示」より、エラー情報の一部を確認できます。

参考

- 営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にお問い合わせいただく際には、エラーメッセージと関連エラーコードをお伝えください。
- インストーラーに関するエラーメッセージ（エラーコードが表示されていないもの）はインストール時にのみ表示され、設定画面からは確認できません。

エラーコード	エラーメッセージ	考えられる要因	対処方法
ECUA2001	エラー情報の履歴が残っていません。削除は不要なため、実施しませんでした。 [Enter] キーを押してください	エラー履歴がない	キーボードの [Enter] キーを押してください。
ECHD2002	内部メモリーにアクセスできない状態になりました。電源を入れ直してください。再度表示された場合、サービスセンターにご相談ください。	内部メモリーにアクセスできなかった	パーソナルコンピューターの電源を入れ直してください。頻発する場合は、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。 ^{※1}
ECHD2003	プロセッサとの通信に失敗しました。RS-232C ケーブルが接続されているかご確認し、電源を入れ直してください。再度表示された場合、サービスセンターにご相談ください。	プロセッサに RS-232C ケーブルが接続されていない	RS-232C ケーブルの接続を確認し、パーソナルコンピューターの電源を入れ直してください。頻発する場合は、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。 ^{※1}
ECHD2004	ファンが停止している可能性があります。電源を入れ直してください。再度表示された場合、サービスセンターにご相談ください。	ファンが停止している	パーソナルコンピューターの電源を入れ直してください。頻発する場合は、営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。 ^{※1}
-	There is an unsupported application on the installation destination PC. Make sure the software is compatible. Setup cannot be performed.	同一のパーソナルコンピューターにインストールされているソフトウェアのバージョンが古いため、インストールできない。	インストールされているソフトウェアを最新のバージョンにしたうえで、再度インストールしてください。

エラーコード	エラーメッセージ	考えられる要因	対処方法
-	Already installed "EW10-EC02 XXXX" Cannot install to this PC Setup cannot be performed.	インストールに使用した USB インストーラーとは別のものを使用してアンインストールしようとした。	インストールに使用した USB インストーラーを使用してアンインストールしてください。

※1 ご相談の際は、エラーメッセージおよびエラーメッセージと一緒に表示されるエラーコードを窓口にお伝えください。

第 6 章 主な仕様

6.1 設置環境（USB インストーラーにのみ適用）

◆ 動作環境

温度	+10 °C ~ +40 °C
湿度	30 ~ 90%（結露状態を除く）

◆ 保管環境

温度	-20 °C ~ +60 °C
湿度	10 ~ 90%（結露状態を除く）

6.2 動作保証

パーソナルコンピューターおよびモニターは、以下の仕様を推奨します。

<汎用コンピューター仕様 1 >

パーソナルコンピューター	<ul style="list-style-type: none"> • CPU: Intel Xeon E3-1505M (Intel Quick Sync Video に対応) • CPU クロック : 3.00GHz • GPU: NVIDIA Quadro P1000 • ビデオキャプチャ : DVI-D 入力, 1920×1080 60fps 非圧縮録画可能 (video4linux, Ubuntu 16.04 サポート) • メモリ : 8GB 以上 • ストレージ : 32GB + 256GB 以上のパーティションが可能な SSD (または Cfast) (電力損失保護機能付き) • 外部ポート (USB×2、RS-232C×1) • DVI 出力 ×1: 1920×1080 • 内蔵スピーカー
OS	Ubuntu 16.04
NVIDIA ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> • NVIDIA Graphic Driver 396 • CUDA Toolkit 9.2 for Linux Ubuntu 16.04 x86_64 and Patch 1 • cuDNN 7.4.2 for CUDA 9.2
モニター	<ul style="list-style-type: none"> • 解像度 : FullHD (1920×1080) • リフレッシュレート : 60Hz、DVI 接続できること。

<汎用コンピューター仕様 2 >

パーソナルコンピューター	<ul style="list-style-type: none"> • CPU: Intel Xeon E3-1505M (Intel Quick Sync Video に対応) • CPU クロック : 3.00GHz • GPU: NVIDIA Quadro P1000 または T1000 • ビデオキャプチャ : DVI-D 入力、1920×1080 60fps 非圧縮録画可能 (video4linux、Ubuntu 22.04 サポート) • メモリ : 8GB 以上 • ストレージ : 32GB + 256GB 以上のパーティションが可能な SSD (または Cfast) (電力損失保護機能付き) • 外部ポート (USB×2、RS-232C×1) • DVI 出力 ×1: 1920×1080 • 内蔵スピーカー
OS	Ubuntu 22.04

NVIDIA ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> • NVIDIA Graphic Driver 535 • CUDA Toolkit 12.0 for Linux Ubuntu 22.04 x86_64 and Patch 1 • cuDNN 8.9.6 for CUDA 12.0
モニター	<ul style="list-style-type: none"> • 解像度 : FullHD (1920×1080) • リフレッシュレート : 60Hz、DVI 接続できること。

参考

- IEC 60601-1またはIEC 62368-1規格に適合したパーソナルコンピューターを使用してください。
- 動作保証環境に関しては将来予告なしに変更することがあります。

6.3 保証とアフターサービス

6.3.1 アフターサービス

- (1) 調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- (2) それでも具合の悪いときはサービスへ
営業所または、お買い上げの代理店のサービス窓口にご相談ください。
- (3) 保証期間中の修理は
無料修理規定に基づいて修理させていただきます。
保証期間は、お買い上げ日から1年です。
次の場合は保証の対象となりませんので、ご了承ください。
イ. 火災、風水害などの天災による損傷
ロ. お取り扱い上の不注意または操作の誤りによる機能障害および故障
ハ. 弊社関係外で修理または改造されたもの
- (4) 保証期間後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
サービス窓口にご相談になるときは、次のことをお知らせください。

型 名 :

製造番号 ※ :

故障の状況 : できるだけ詳しく

購入年月日 :

参考

- 製造番号は、取扱説明書のバインダーに記載されています。

製品のお問い合わせ窓口について

製品のお問い合わせ先

電話番号：**0570-02-7007**（ナビダイヤル）

富士フイルムメディカル株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目 26 番 30 号

電話番号：03-6419-8045

添付文書閲覧用コード

内視鏡検査支援プログラム
EW10-EC02



(01)04547410425949

専用アプリで上記のコードを読み取ることで、PMDAのWebサイトに掲載されている本製品の添付文書を確認できます。

製造販売業者 **富士フイルム株式会社**
〒258-8538 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地